

平成21年度 国際交通安全学会
研究調査報告会ならびに
学会賞贈呈式

平成22年4月16日(金)
午後1時30分
経団連会館・ホール (2F)



財団法人 国際交通安全学会

ごあいさつ

財団法人 国際交通安全学会
会 長 小 口 泰 平

春暖の候、各位におかれましては益々ご清栄の段、心よりお慶び申し上げます。また、日頃から当学会の活動に格段のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

高質な交通と文化は、産業活動の発展に寄与するとともに生活の便利さと豊かさを支え、急速に進む情報化社会でも重要な役割を果たしています。とりわけ自動車交通の発展は、公共的・私的なモビリティの質的・量的な拡大をもたらしています。しかし、一方では交通事故、環境汚染、資源消費など多くの深刻な問題を抱え、更には、高齢化や都市・地方の再生といった社会的な問題も喫緊の課題となり、持続可能な優れたモビリティ社会実現に向けたグランドデザインの理念構築、実践的問題解決のための調査研究および提案、継続的な教育支援活動などが求められています。

国際交通安全学会は、交通とその安全・安心のための学際的かつ国際的な視点からの取り組みが活動の指針であり責務と考え、活動を進めてまいりました。今後とも、関係各位の変わらぬご支援、ご協力を賜りますことを切にお願い申し上げます。

さて、この度、当学会定例の研究調査報告会、ならびに学会賞贈呈式を下記のように催すこととなり、皆様に御案内申し上げます。ご多用中とは存じますが、万障御繰り合わせの上ご出席を賜れば幸甚に存じます。

記

日時：平成 22 年 4 月 16 日(金) 午後 1 時 30 分

会場：経団連会館・ホール(2F)

(東京都千代田区大手町1-3-2 TEL: 03-6741-0222)

内容：研究調査報告会は、平成 21 年度に成果が明らかになった研究プロジェクトの中から 4 テーマについて御報告申し上げます。

また、国際交通安全学会賞は、交通と安全に関して、多大の貢献をした業績等を顕彰させていただくもので、今回は 31 回目となります。

お願い：お手数ではございますが、同封のハガキにて、御出欠を4月9日(金)まで(必着)にお知らせ下さい。

平成21年度 研究調査報告会・学会賞贈呈式 スケジュール

13:00	受付	
13:30	開会の挨拶	会長 小口 泰平
13:35	研究調査部会企画委員会委員長挨拶	久保田 尚
13:40	ドライバーの感情特性と運転行動への影響 ～感情コントロールのための教育プログラム開発を目指して～	小川 和久
14:25	安全・快適な都心歩行環境を支える 駐車場のあり方研究	岸井 隆幸
15:10	コーヒープレーク	
15:30	〈学会賞贈呈式〉 挨拶	会長 小口 泰平 褒賞助成部会企画委員会委員長 中村 英樹
	学会賞贈呈 祝辞	警察庁長官 安藤 隆春 内閣府大臣官房審議官 太田 裕之
	受賞業績の紹介	
16:10	休憩	
16:20	生活道路の総合研究	久保田 尚
17:05	安全でエコなラウンドアバウトの 実用展開に関する研究	中村 英樹
17:50	閉会の挨拶	専務理事 石附 弘
17:55		

平成21年度 研究調査報告会 報告テーマのプロフィール

I. ドライバーの感情特性と運転行動への影響 ～感情コントロールのための教育プログラム開発を目指して～

- PL. 小川 和久 (東北工業大学共通教育センター教授)
太田 博雄 (東北工業大学ライフデザイン学部教授)
向井 希宏 (中京大学心理学部教授)
鈴木 隆司 (本田技研工業㈱安全運転普及本部)

感情コントロールは、安全運転に求められる重要な技能の一つである。「ストレス相互作用モデル」を理論的背景として、イライラ・焦りなど、運転中の感情経験に関する自己理解と対処法の学習を目的とした教育プログラムを試作した。運送・配送業務に従事する職業運転者102名を対象にこの教育を実施した。

教育効果を調べるため、教育参加者の意識や運転行動の変化を分析した。その結果、一定の教育成果とプログラムの有効性が示された。主な結果は次の通りである。

①教育プログラムに対する参加者の評価は好意的で受容度は高い。②他者の不安全行動に対する怒り、時間的プレッシャーによる焦りのストレス反応が低減し、自己効力感(何とか対処できるという意識)が向上した。この変化は、焦りの感情に対する若年層の意識に顕著に示された。③G(急ブレーキ、急発進等の重力加速度)変化など定量的な行動変化は、今回は実証できなかった。

本教育プログラムに対する現場のニーズや関心を考慮し、教育効果を継続させるための方策、教育普及のための活動など、研究の方向性について議論する。

II. 安全・快適な都心歩行環境を支える 駐車場のあり方研究

- PL. 岸井 隆幸 (日本大学理工学部教授)
中村 文彦 (横浜国立大学大学院工学研究院教授)
半田真理子 (財都市緑化技術開発機構理事)
松村みち子 (タウンクリエイター代表)
大沢 昌玄 (日本大学理工学部専任講師)
木下 瑞夫 (明星大学理工学部教授)
阪井 清志 (国土交通省都市・地域整備局都市計画課都市計画調査室長)
日野 祐滋 (社日本モノレール協会専務理事)
松本 篤 (愛知産業大学通信教育部教授)

都心部で安全・快適な歩行環境を確保するには、自動車交通の計画的な制御が不可欠である。本研究はこうした課題に「駐車場」から迫ったもので、都心部駐車場のあり方を、その密度 (Density)、配置 (Disposition)、デザイン (Design) の3つの側面から検討した。

まず、東京の副都心、業務核都市などの駐車場整備地区を取り上げ、駐車場の実態調査を行った。次に、米国、独国、英国の諸都市で同様の調査を行うとともに、各国の駐車場設置基準について分析した。こうした成果を利用して、駐車場密度と設置義務基準との関係を明らかにし、我が国地方都市を対象としたモデル配置案を提案した。また、様々な緑化パターンを検討して、緑化駐車場に必要な単位面積、緑化率を導いた。

最後に、移動制約者用駐車施設の潜在的需要について調査を行い、同施設の必要量およびその対応策について検討し、駐車場法の改正に向けた提案を行った。

Ⅲ. 生活道路の総合研究

- PL. 久保田 尚 (埼玉大学大学院理工学研究科教授)
太田 和博 (専修大学商学部教授)
伊藤 将司 (㈱福山コンサルタント東日本事業部課長)
上野 俊司 (国際航業㈱社会基盤事業部長)
Susanne Elfferding (リサーチャー、翻訳・通訳家)
小嶋 文 (埼玉大学大学院理工学研究科博士後期課程)
林 隆史 (財国土技術研究センター道路政策グループ主席研究員)
本田 肇 (国土交通省国土技術政策総合研究所主任研究官)
牧野 幸子 (㈱ケー・シー・エス社会政策部テクニカルアドバイザー)
横山 哲 (㈱ドーコン交通事業本部技師長)
横川 政男 (埼玉県県土整備部道路政策課政策担当主幹)
田中 守 (埼玉県県土整備部道路環境課主幹)
山崎 進 (埼玉県県土整備部道路環境課主任)
荻野 長武 (埼玉県警察本部交通部交通企画課事故分析補佐)
関根 孝史 (埼玉県警察本部交通部交通企画課事故分析係長)
野崎 隆 (埼玉県警察本部交通部交通企画課事故分析係長)

わが国の生活道路の事故が高止まりの傾向を続けており、全体の事故の1/4以上を占めるに至っている。本研究は、様々な観点から生活道路を取り上げ、安全で快適な生活道路のあり方を模索しようとしたものである。

まず、近年生活道路の事故件数が増加した要因の分析を行い、その中で、カーナビの普及との関係に着目した。いうまでもなく、カーナビの登場により、ドライバーは道に迷う心配から解放され、交通安全に大きく寄与して

いるのは間違いない。ただ一方で、カーナビを利用した抜け道利用の存在も指摘されていることから、JAFとの共同によるアンケート調査や実走行実験を通してその課題を浮き彫りにし、あわせて改善に向けての提言を行った。

一方、生活道路のデザインに関して、近年ヨーロッパで普及してきたシェアドスペースに着目し、視察および観測調査を実施することによって、その特徴を整理するとともに、わが国への適用性や課題を検討した。

IV. 安全でエコなラウンドアバウトの 実用展開に関する研究

- PL. 中村 英樹 (名古屋大学大学院工学研究科教授)
大口 敬 (首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授)
尾崎 晴男 (東洋大学総合情報学部教授)
大江 真弘 (国土交通省道路局地方道・環境課課長補佐)
淡中 泰雄 (国土交通省道路局企画課課長補佐)
浜岡 秀勝 (秋田大学工学資源学部准教授)
宗広 一徳 (独)土木研究所寒地土木研究所主任研究員)
森田 綽之 (日本大学総合科学研究所教授)
米山 喜之 (㈱長大社会計画 事業本部主査)
吉岡 慶祐 (名古屋大学大学院工学研究科博士前期課程)

平面交差点では出会い頭や右折対直進などの交通事故が後を絶たない。信号機の設置だけでは根本的な解決策とならない場合も多く、また交通量の少ない平面交差点での信号機の設置は、遅れや環境負荷をもたらす。このような問題点に対して、欧米諸国では近年ラウンドアバウトを積極的に導入し、安全で低コスト・低環境負荷(エコ)な平面交差点を実現している。しかし、日本ではラウンドアバウトに関する認知度が低いことや説得力のある実データの蓄積不足から、実用化へのハードルは依然高い。

そこで本研究では、日本での実用展開に向けて、行政機関と連携して実道実験を行い、これより様々な実データを収集することで上記の障害を順次克服し、本格導入のための環境を整えることを目的とする。

今年度は、ラウンドアバウトの適用条件や現状の課題整理、試験場内への模擬ラウンドアバウト設置による実データの分析、改良候補交差点の抽出などを行った。

第31回

(平成21年度)

国際交通安全学会賞贈呈式 式次第

開 会

挨 拶

会 長 小 口 泰 平

選考経過報告 褒賞助成部会企画委員会委員長 中 村 英 樹

学会賞贈呈

業績部門

◇中日本高速道路株式会社 殿

「東名高速地震被災から115時間での応急復旧」

～駿河湾を震源とする地震災害への対応～

祝 辞

警察庁長官 安 藤 隆 春

内閣府大臣官房審議官 太 田 裕 之

受賞業績の紹介

閉 会

経団連会館案内図



(注) お荷物は2階のクロークにお預け下さい。



報告会・贈呈式についてお問い合わせは下記へご連絡下さい。

財団法人 国際交通安全学会

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-20

TEL 03-3273-7884

E-mail: mail@iatss.or.jp

URL: www.iatss.or.jp

事務局 { 研究報告会：柿沼、小島、佐伯
 { 学会賞贈呈式：鈴木、今泉、清野